

はつかねずみの話

哲 化 人

簡單に飼養出来る小動物のうちで哺乳類に屬するものは、可成高等な智能や巧妙な習性を面白く觀察することが出来ますが、その飼養する簡單さや場所の經濟の點で、はつかねずみはもつと一般に飼はれるべきものだと思はれます。犬や猫とは又變つた面白味があり、兎程手間がかゝらず子供の遊び相手として觀察の對象として手頃なものであります。御承知の如く、はつかねずみは齧齒類に屬してゐまして、その特長である門齒は、餌を食べてゐる時によく觀察されます。この類の門齒は上下各々二枚づゝありまして、前面に珫瑯質の一層があり、あとは象牙質でありますから、噛む時の磨滅は比較的硬い珫瑯質を残して象牙質は著しく

減りますから、齒は丁度楔の様にとがつてあります。そしてこの門齒はたえず生長しますが噛むのが甚しい故磨滅して行きます。時々ある畸形ですが何かのために一枚の門齒がかけるとそれに噛み合ふ門齒は噛むために用ひられず従つて磨滅しないので長く延びてしまふのがあります。食べる時の様子は又面白いもので、後脚と尻尾とて體を支へて、前肢で器用に、丁度人間がお行儀よくお茶をも兩手で持つていたたく時の様に、小さい米粒を持つて、バリバリ音をさせ乍ら食べてゐます。その時は上の門齒二枚がよく見えます。このねずみの尻尾は可成な役に立つもので、前肢で物を食べてゐる時に後脚をたすけるのみならず、色々な場

合に脚の補助として體を支へてゐます。尾には四本の腱が通じてゐて尾骨と連絡して運動をたすけます。時によるとピンと垂直に立てて歩いてゐる時もありますし、ひきづつてゐる時もあります。指で尾へ觸れますと、觸れた方向へ曲つて巻きつきまゝです。これは尾が他の物體にあまり離れて出てゐると捕へられたり等するのを防ぎます。よく家にあるくまねずみ、しちらうねずみ等では尾で細い堀の内のバタ等をとつてなめるさうですがはつかねずみではそれ程でもありません。これも種類によつて長短があります。肢ですが、この耻の裏には皺があつて凸凹してゐます。これは壁等に攀る時に吸盤の役に立つもので、直立したすべつこい壁を上れるのはこれのためです。又後脚は前肢に比較して長大であることは兎に似てあります。後脚は跳ぶのに用ひ前肢は多くは捕食に用ひます。兎は跳ねるので有名ですが、はつかねずみもよく跳

ねます、小さい小供ですと一層ひどくて、物に怖れた時等は、高さにして三四尺、幅も一間位飛ぶ事もあります。そのために脚を挫いたり腰の骨を曲げたりする事はめづらしくありません。後脚は歩行の時に主な役目をしまして前肢はただちよつと用ひるにすぎません、後脚だけでカンガルウの様に歩かせる事も特別に仕込めば出来るさうです。眼は極端な近眼で水晶體は殆んど球に近い程ふくれ上つて居ます。したがつて極めて近い物しか感じられませんが。しかしそれを補ふのに鬚と耳と鼻とがあります。大體齧齒類の動物は性質が憶病でして、逃げる器管と知覺の器管とは特に發達してあります。眼のその様に近眼なもの、もともとねずみは暗黒な所を好んで隠れてゐるものであつたのでさ程遠くを視る必要もなかつたわけですから。暗い陽の當らない場所では物の臭も發散せず

に永く留まつてますから、鼻の發達してゐるのは

都合がよいわけです。長く飼つておられますと餌をやる人の匂ひを嗅ぎ分けて、箱の前に立ちますと皆一齊に出て來ます。それは目に見えるからではなく、人の匂ひを知つてであります。又觸覺の方では立派な鬚を持つてゐます、繪にねずみを畫く時鬚を忘れる人はありません様に見事についてゐて、たえずそれをビクビク動かしてあります。耳のいい事も兎におとらないでせう。

以上體についてお話し致しましたが、これを實際に觀察なさるのもたやすい事であります。今まではつかねずみの飼養に關してはその特異の臭氣で評判が悪かつた様ですが、これも飼ふ方の面倒の見方一つで臭くなく飼へます。一體この臭氣はつかねずみの尿から發するもので掃除さへ丁寧にしてやれば、さ程激しいものでもありません。

飼ふ箱は何んでも手頃なもので結構ですが、唯注意しなければならぬ事は、ねずみの齒の力の豫

想外に強い事であります。ですから木の箱でも節穴だとかすき間のない様に造らねばなりません。すき間のないものは齒の立て様がありませんが、

少しでも隙いてるとこへ齒を入れて噛み出します。みかん箱の横を外して金網を打ちつけたのは上等です。高さは四五寸あれば充分ですが、面白く運動させるには、みかん箱位の方が自由で結構です。金網は二分目位以下でないと逃げます。子供のよろこぶのは車を廻させる事ですが、これは經四五寸位の水車様の車で横から出入する様にしておきます。梯子をつけて昇れる様な高い所へ置けば猶更面白いてせう。巢は箱の片隅のなるべく暗い所に置いてやつて、わらを切つて三四寸の長さにしたのを入れてやります。堅さうなわらの心でも噛んで綿の様に柔かくして丸く上手に巢をつくりまします。口でほごして柔かくしたわらを口でくわへて持つて行き前肢であしつけます。その恰好

は又仲々巧妙なものです。綿でも結構ですが、時々取換へてやる事を忘れると臭くなりませす。わらでも時々取換へる事は必要です。餌は何でもち臺所から出る野菜の切れ端で結構ですが、小米を主食とし菜大根の類を副へてやるのを喜びませす。水は外にやりませんから、野菜で水分をとります。

野菜をやる事を忘れてはなりません。日々の分量は體が小さいので極くわづかて有ります。一疋一ヶ月の食量は小米にして約五勺位です。それに日々野菜を加へませす。毎日餌をやる事を忘れてはなりません。都合によれば、古くなつたパンの一片でも又さつまいも一個でも入れておいて二三日もたせる事も出来る便利なものです。飼養の經費などは計算も出来ぬ程僅少です。

はつかねずみの中でも色々な種類がありませす、南京種、英國種、佛國種それにこまねずみといふのがあります。そして各種に色々の毛色のが

あります。綺麗なのは白子種で赤目で毛色は眞白です。その他褐色の斑、黒の斑、茶色の斑、紫黒の斑等色々な斑があつて遺傳の研究に用ひられてゐませす。又佛國種は全然眞黒でつやつやとして奇麗です。

愛玩用として南京種が小型で活發で面白うございます。車もよく廻します。値段は一匹十錢から十五錢二十錢位で鳥獸店で求められます。

普通にははつかねずみは子供が殖えて始末に困ると云はれてゐませす。實際よく産みます。一腹に四五匹から多い時は十匹位、それで一匹の雌で四五回は一年に産みます。所謂ねずみ算で殖えませす。が又死ぬ方も多いですから左程心配はいりません。壽命は長くて二年位、ですが、色々の事で早く死ぬのが多いです。産後に死ぬのもありませすし、風邪でやられるのもありませす。一體ははつかねずみは人間に飼はれてゐるものですし、又祖先の野生

の鼠も人家に住んでゐますから、暑さ寒さは人間と同様に感じます。夏はダラリとして寝そべつてゐます。冬になると巢へもぐり込んで澤山かたまつてお互にあたため合つてあります。こんな動物でも協同して社会的な生活をしてゐるのは面白い事でありませう。一匹が傷を負ふと皆でなめて癒してやつてゐますし、病氣にでもなると皆であたためてやつてゐます。

簡單にお話は終りましたが、何にしてもこの様な高等動物でこの様に小さくて人に馴れて、飼ひやすいものは他に求められないものと思はれます。その興味多い生活状態を觀察する事は、それを我々人間の生活に比較して見られるといふ意味に於て面白く又有益な事と思はれます。(終)

川の邊の水菜に

春の水鶏かな

乙二

柳暮れて

人船に來る

離愁かな

はこべらに

嘴青く

小鳥かな

みどり女